

グループホーム なかばる 外部評価結果

1. 自己評価及び外部評価結果
2. 自己評価および外部評価結果

※次の項目をWAMNETに掲載いたします。

1. 自己評価及び外部評価結果
2. 自己評価および外部評価結果
「項目番号」・「項目」・「自己評価」・「外部評価」
3. 目標達成計画

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4094400050		
法人名	医療法人すずらん会		
事業所名	グループホームなかばる		
所在地	糟屋郡粕屋町甲仲原1-20-23 (電話) 092-939-2251		
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 6 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

医療・介護を通し地域社会のニーズに応えながら、人々が住み慣れた地域で安心して生活できる様に努めています。現在、入居の方々の日常生活においては、家事動作を一つでも多く増やせるように職員一同で支援しています。また、健康管理については、安心して過ごして頂けるよう医療法人すずらん会たろうクリニックと蜜に連携を図っております。「いつも感謝の気持ちを胸に、明るく、楽しく、笑顔で、共に想い、支えあいます」という基本理念を胸に日々介護に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 12 月 8 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体法人は医療法人であり、在宅療養支援診療所・認知症デイケア・住宅型有料老人ホームを運営されている。クリニックでは「物忘れ外来」等、認知症専門医が配置され、利用者及び地域に対する情報共有に力を入れ、専門的な診療を受ける事が出来る。グループホームは道路沿いの平屋の2ユニットであり、各ユニットの共有部分は吹き抜けからの自然光を取り入れ、明るい環境である。昨年、地域行事で参加をした「RUN伴プラス：心のバトンをつなぐ」の参加写真を玄関に飾り、地域密着に力を入れていると感じる事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも感謝の気持ちを胸に、明るく、楽しく、笑顔で、共に想い、支えあいます」という基本理念を胸に日々介護に取り組んでおります。	「いつも感謝の気持ちを胸に、明るく、楽しく、笑顔で、共に想い、支え合います」と理念を掲げ、地域との交流する機会も実践しています。理念は職員が目届く場所に掲示し管理者も職員と一緒に信頼関係を深めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑作業や町内への散歩機会を日常的に持つ事、町内の行事に参加を継続する事で、地域の方と会話を行っている。※町内への散歩・行事参加については現在コロナ禍につき控えています。	地区で行われた「RUN伴プラス：心のバトンを繋ぐ」のランナー・応援団として参加しており、利用者も参加をしています。認知症カフェでは、管理者が「介護無料相談受付」で市民の方が介護に対しての相談を受け付ける事もある。大家さんが野菜・花の苗や種を持って来てくれて自家栽培をしています。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェへの参加や、地域の方や訪問者に可能な限りアドバイス等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、活動内容、利用状況、運営状況等を公表し、参加者より意見や課題を頂き、可能な限り実践できるよう取り組んでいる。	コロナ禍で開催は行っていないが、奇数月に活動内容・利用者状況・運営状況の報告書を作成してご家族様に郵送をしている。推進会議の構成員は「利用者・家族・職員・民生委員・役場・薬局である。報告書はカラー作成しており毎月の活動記録を見やすく作成されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営状況等を担当者に、その都度相談等を行っている。	福祉事務所に出向き窓口で相談を行っている。金銭的支払い等で相談事例もあり担当者との連絡体制も構築されている。電話等の連絡体制もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について、勉強会を行っており、日常のケアについて、身体拘束を行わない方針を伝え、身体拘束に相当する対応を行っていないか振り返るようにしている。	3ヶ月に1度研修会を開催している。通常業務でも身体拘束に繋がらないか等を確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。研修資料はメディアパスアカデミーを利用し、研修資料・動画等を活用している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について学習し、言葉遣いや身体介護を行う上で、利用者の苦痛となる事は一切しない、させない様に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援において、介護福祉サービスの情報提供や、契約援助、日常的なお金の管理の支援、大切な書類等の保管を行っている。本人の状況及び認知症の判断能力が十分でない方に、成年後見制度を取り入れている。	年1度の研修を予定しており、今年度は、年度末に研修を予定している。成年後見人制度を利用している方も入居しており、制度は活用出来る事業所である。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一方的な説明にならない事や、家族の疑問点については、より丁寧な説明を行い、しっかりと納得して頂いた上での契約を行うよう心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見は家族に伝え、家族からの希望を聞いた上で、利用者にとって最も良い答えを職員(チーム)全体で導き出すようにしている。その際関係各所にも協力を得ている。	現在、コロナ感染予防の為面会は制限されています。意見箱は玄関に設置しており利用者の生活状況・身体状況は面会時に報告し、ご家族からの要望については電話でも受け付けている。運営推進会議の資料を各御家庭に郵送している事で事業所内で行われた事は把握出来ている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を聞き、現場で解決できる事か、本部を交えて解決することかを判断し、解決策を導き出すようにしている。	1週間に一度、職員とカンファレンスを開催し日常業務・住環境について提案された内容等の情報を共有している。提案された内容は月に1度の管理者会議で検討されている。ユニット間で交流もあり事業所前の駐車場でラジオ体操を一緒に行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の成長を評価し、処遇に結び付けることを目的とし、人事考課制度を導入、また安心して働ける職場環境を目指し福利厚生充実にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接の際には、介護士としての想いや、介護に対する考えを重視し、性別や年齢、経験に対する差別や蔑視はしていない。職員については、知識や経験、また個人の能力や特技を發揮できるようにしている。	男女問わず採用されている。無資格者については資格取得に協力的に職員の支援がある。定年は65歳で再雇用も可能である。新人教育は1週間担当職員配置し業務について指導を行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権については事業所内研修を行い、また日々の業務中での言葉遣いや関わり方について振り返る機会を設け、不適切な場合はその場で指導するようにしている。	年に2回の研修を予定している。管理者と職員は業務中にお互いの気持ちを理解する為に、日々の業務の中で話し合いを行っている。メディアパスの研修資料を用いて、年度末に2回目の研修を予定している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者の資格取得の為の補助制度及び介護職員向けオンライン動画研修〈メディアパスアカデミー介護〉を導入している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各施設とのミーティング〈すずらんプロジェクト〉や外部研修に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活や人間関係に対する不安を職員全員が理解し、今後のよりよい人間関係を構築できるよう新入居の方に接する時間をより多く設けるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を決断されるまでの経緯をよく理解した上で、家族・利用者が求めるこれからの人生についての相談に応じている。家族の安心感を得られる様な関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で出来るだけ相談されている本人様と家族様の意思や思いを受容し、入居時のアセスメント等で支援の見極めの確認を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は過度な介護にならない様心掛け、日常生活においても家事や趣味活動に取り組んで頂き、個人の能力を引き出す様努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者と共に暮らした日々になんか少しでも近づける様、家族の話に耳を傾け今後のプランに反映させる様にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であるため、面会時はマスク着用・検温・手指消毒徹底の上、玄関先での面会（10分程度）をしていただいている。また利用者様の日頃の様子は電話や書面にて月末ご家族へ報告させていただいている。	お友達からのお手紙などは職員が代読し利用者から喜ばれている。コロナ禍で面会は制限されているが「少しの時間でも面会が出来る環境」を検討し配慮している。窓越しではあるが、面会を実施している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名の共同生活の中で、利用者同士の間により良い関係性が出来るように配慮し、席替えや同趣味による共同作業を行える環境作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族から相談等があれば誠実に対応している。また当施設での思い出の写真をアルバムにしてお送りしたところ、家族より喜びのお便りを頂いている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、表情や言葉を聴き取りながら、その方の心の奥にある思いや、感情を表出できるように配慮し、その人らしい望む生活の実現に向けて、希望や意向の把握に努めている。	利用者本人に、どんなことをしたいか等を伺い、希望された塗り絵や編み物を取り入れた。日頃から、表情や言葉で、気持ちを読み取りながら、生活を楽しくもらえるように支援している。コロナ禍になる以前は、誕生日には、その方の好きな食事をしに外出したりしていた。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族とのコミュニケーションを通じて、これまでの生活歴や暮らしぶり、生活環境等の情報を得、利用者本位のケアを実現するために、関連職種との連携を図ることで、情報を得ることも大切にしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において、心身状況や、体調等の観察を行い、介護記録やケアカンファレンスをもとに、気づきを得ながら、暮らしの現状把握に努めている。また医療等の関連職種からの情報や、アドバイス等の活用もしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の望む暮らしを達成するためのニーズを把握するために、利用者家族、関係者との話し合いの場を設け(コロナ禍の現在は、書面や電話照会)意見を出し合いながら、介護計画の作成に取り組んでいる。モニタリングの際は、把握した情報を伝達できる仕組みづくりを検討中である。	本人や家族から希望や意向を聞き取り、ニーズの把握に努めている。ケアチェック表を介護職員に記入してもらい、ケアカンファレンス時に意見を出し合い、計画を作成している。また、体調面については、かかりつけ医から助言を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を明確にし、チームで関わる職員間で、一人ひとりの情報を共有化することで、日々のケアや、介護計画の見直しに活かせることを目標にしている。最適なケアマネジメントの実践に反映できるよう、介護記録に関する書籍等を設置し、職員も自己研鑽に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族を個別で支えるために、多様なニーズに応えられるよう、地域の中の専門職や認知症サポーター、ボランティア等へのメッセージの発信、選択できるサービスの多機能を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域、もしくは、なじみの地域の中で、培われた価値観や、暮らしの楽しみを尊重し、コロナ禍の中で、安全に行う事ができる地域資源の把握に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の意向を大切にしながら、医療機関受診支援にも、対応している。「たろうクリニック」による、定期訪問診療を取り入れており、必要に応じて外部医療機関・他科受診への連携も行っている。	協力医から月に2回往診に来てもらっている。入居前のかかりつけ医を希望される場合は、かかりつけ医を変えないで、希望される医院に送迎し、家族と待ち合わせたりしている。往診や家族の付き添いのない受診の際には、家族に受診内容を電話で報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による1回/週の巡回時に、利用者の状況を介護職より報告を行い、認知症ケアへの支援も含め、情報共有を図っている。また「たろうクリニック」との24時間連絡体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療に専念できるよう、入院時には、キーパーソンとの相談の上、地域医療連携室の病院相談員(MSW)への情報提供に努めている。退院時には、事業所への連絡を依頼し、主治医や看護師、MSWから、ご本人の心身状況のい確認を行い、退院後の受け入れ準備に繋げている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制加算の同意を得て、重度化に対する指針を説明している。また心身状態に応じてかかりつけ医、家族様との話し合いを行い、看取りケアを行う際も本人様の意向を確認しながら、家族様やかかりつけ医との話し合いを行い今後の方針を決めている。また家族様の要望に臨機応変に対応出来る様に配慮している。	重度化や看取りについては、契約時や必要時に説明している。その際、家族にどこまでして欲しいか希望を確認し、出来る範囲内で対応するようにしている。また、看取り時は、変化に応じ家族の希望や意見を聞きながら、かかりつけ医と連携をとって対応している。医療が必要な時は、入院を勧める時もある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生等に備え、実践力を身につけられるように、職員全員が心がけている。コロナ禍の中で、参加できる訓練や、救命サポートアプリ等の活用も検討している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、ライフライン事故や輸送困難を想定し、対応できるよう申し合わせを行っている。災害時のシミュレーションや、定期的な避難訓練を行っている。適切なケアを受けられるよう、緊急連絡網での連絡体制をとっている。	年2回避難訓練を行っている。また、火災のみでなく地震、水害等の災害時のマニュアルを作成し、訓練を通して、いざという時に避難出来る様にしている。非常用備蓄は、事業所内に食料、水、備品と備えている。	地域住民や消防署の協力が得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みをして欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中で「介護している」ではなく「介護させて頂いている」ということを肝に銘じ、言葉掛けや対応に努めている。	利用者の想いに合わせた介護実践を行い、不快な思いをさせないように気配りをしている。入浴時、排泄時はドアを閉める。利用者をさんづけで呼ぶ等利用者の尊厳を守るように、職員同士で注意しながら気を付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの際は数種類の飲み物の中から希望のものを選んで頂いている。また入浴や就寝時間についてはできるだけ本人の希望に沿うようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の生活習慣の中で日課があれば、継続するようにしており、職員が日々の生活スケジュールに余裕を持って行動する事で、お一人お一人のペースや生活リズムを大切にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時及び入浴後等、鏡の前で頭髪を整えたり、保湿クリームを塗るなど、本人が満足いく身だしなみとなる様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内の畑に季節の野菜を植え、利用者と一緒に育て収穫している。調理方法も利用者と考え決めている。互いに笑顔や会話も増え楽しい食卓となっている。	敷地内の畑で、ナスやトウモロコシを利用者と一緒に育て、収穫して、食材として提供し楽しんでいる。利用者に食事の盛り付けや食器を洗うなど、出来る事はしてもらっている。誕生日には、特別メニューとして、本人の好みの食事を提供している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表をもとに、1日の食事水分摂取量の把握を行っており、食事や水分量が不足している利用者に関しては好きな飲み物や食べ物を摂取していただくなどの支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の歯磨きを行っており、義歯は就寝前に消毒している。自身で磨いた後に必要時磨き直しの支援を行っている。個別の状態に応じた口腔ケアを実践している。また訪問歯科も利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンに応じた排泄支援を行っている。また下着を使用されている入居者様もおられるので、できるだけ排泄レベル維持に努める様に留意している。	利用者の排泄パターンを把握し、日中は基本的にトイレで排泄できるように誘導している。トイレに行く際には、歩行訓練を兼ねて、フロアを一周したり、外に散歩に出たりして、リハビリとなるようにしている。使用しているパットは、利用者に合わせて物を、日中と夜間とに使い分けている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や個別運動等を行い、こまめな水分補給とバランスに配慮した食事を取るよう留意している。また排泄状況を正確に申し送り、ケアに活かしている。必要に応じてクリニックからの指示を頂き薬によるコントロールも行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週3回としているが、利用者の体調や気分に合わせて入浴日の変更も行っている。入浴を楽しめるようお声掛けなど工夫している。	入浴は週3回入る事が出来るようにしている。入浴を拒否される方には、声掛けや関わり方を工夫し、入ってもらおうようにしている。それでも拒否される場合は、時間をずらしたり、日にちをずらすなどしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は固定せず、各入居者様の睡眠パターンを考慮している。休息も同様にご本人の希望に配慮している。また、就寝前リビングでの雰囲気作りや居室内の室温調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を薬箱の近くに置き適宜確認できる環境下になっている。新しく処方された薬に関しては、用法用量を理解し服薬の支援を行っている。症状の変化に対応できるよう観察点を確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた楽しみ（食後のお菓子、外出など）の機会を持つ事を大切にしており、日常の会話から確認できる希望は職員間で共用し、実現出来るように取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその方の状態に応じて近所へ散歩に出掛けたり家族様の協力のもと時々外出されている。※現在はコロナ禍につき密になる場所への外出は控えている。	コロナ禍になる以前は、イオンモールに買い物に行ったり、桜の花見や博多タワーにドライブに行ったりしていた。また、気分転換にドライブに行きたいという利用者の声があれば、今は車から降りないでドライブに出かけている。また、人の密集を避け、敷地内の駐車場を毎日散歩している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人様の預り金として事務所金庫にて保管し、買い物や外出時に本人様と一緒に金額など相談しながら支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等の面会が困難な時期は、施設内の電話を利用しお話しして頂いている。携帯電話を持ち込まれている方もいる。家族からの手紙は利用者に渡し必要であれば職員が代読している。また利用者から希望に応じ家族宛の手紙やメッセージを郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音や不快な物音をたてない様に常日頃留意し、室内も適度な明るさを維持している。また定期的な換気や冷暖房等を使用し室温及び湿度を調整している。入居者・スタッフでレク活動として作ったものを廊下等に飾り、季節感や居心地良く過ごせるように配慮している。	利用者がレクリエーションで作った切り絵などを廊下に飾り、季節感を出している。自然光がフロアに入ってきており居心地よい。また、利用者の様子を見て、落ち着きやすいようにソファを配置し、工夫している。天気が良く布団を干す際には、利用者と一緒に外に出て「今日は暖かいですね」など会話をし日光浴している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには個別の席を確保しており、食卓テーブルやソファでは気の合った利用者同士が思い思い自由に過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前暮らしていた頃に少しでも近付ける様に、馴染みのある家具や写真等を置き居心地の良い空間を作っている。また、自身で作成された絵や作品、職員や家族によるメッセージカードや色紙等を飾っている。	ベッドやタンスは事業所が用意しているが、使い慣れた家具を持ってきてもよい。家族の写真などを飾って、居心地のよい馴染みのある居室づくりをしている。お仏壇を置かれている利用者もいて、職員とお水を供えるのを日課としている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、廊下やリビング内、トイレ内等に障害となる物を置かない様にしている。また、人感センサーを設置し安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やカンファレンス等、事業所理念について振り返る機会を持っている。共用部の目に触れる場所にも事業所理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑作業や町内への散歩機会を日常的に持つ事、町内の行事に参加を継続する事で、地域の方と会話を行っている。※町内への散歩・行事参加については現在コロナ禍につき控えています		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェへの参加や、地域の方や訪問者に可能な限りアドバイス等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催しており、活動内容、利用状況、運営状況等を公表し、参加者より意見や課題を頂き、可能な限り実践できるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営状況等を担当者に、その都度相談等を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について、勉強会を行っており、日常のケアについて、身体拘束を行わない方針を伝え、身体拘束に相当する対応を行っていないか振り返るようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について学習し、言葉遣いや身体介護を行う上で、利用者の苦痛となる事は一切しない、させない様に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援において、介護福祉サービスの情報提供や、契約援助、日常的なお金の管理の支援、大切な書類等の保管を行っている。本人の状況及び認知症の判断能力が十分でない方に、成年後見制度を取り入れている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一方的な説明にならない事や、家族の疑問点については、より丁寧な説明を行い、しっかりと納得して頂いた上での契約を行うよう心掛けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見は家族に伝え、家族からの希望を聞いた上で、利用者にとって最も良い答えを職員(チーム)全体で導き出すようにしている。その際関係各所にも協力を得ている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を聞き、現場で解決できる事か、本部を交えて解決することかを判断し、解決策を導き出すようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の成長を評価し、処遇に結び付けることを目的とし、人事考課制度を導入、また安心して働ける職場環境を目指し福利厚生充実にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接の際には、介護士としての想いや、介護に対しての考えを重視し、性別や年齢、経験に対する差別や蔑視はしていない。職員については、知識や経験、また個人の能力や特技を発揮できるようにしている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権については事業所内研修を行い、また日々の業務中での言葉遣いや関わり方について、振り返る機会を設け、その場で指導するようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者の資格取得の為の補助制度及び介護職員向けオンライン動画研修〈メディアパスアカデミー介護〉を導入している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各施設とのミーティング〈すずらんプロジェクト〉や外部研修に参加している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境での生活や人間関係に対する不安を職員全員が理解し、新入居の方に接する時間をより多く設けるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を決定されるまでの経緯をよく理解した上で、家族・利用者が求めるこれからの人生についての相談に応じている。家族の安心感を得られる様な関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階で出来るだけ相談されている本人様と家族様の意思や思いを受容し、入居時の担当者会議等で支援の見極めの確認を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は過度な介護にならない様心掛け、日常生活においても家事や趣味活動に取り組んで頂き、個人の能力を引き出す様努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者と共に暮らした日々になんか少しでも近づける様、家族の話に耳を傾け今後のプランに反映させる様にしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であるため、面会時はマスク着用・検温・手指消毒徹底の上、玄関先での面会（10分程度）をしていただいている。また利用者様の日頃の様子は電話や書面にて月末ご家族へ報告させていただいている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9名の共同生活の中で、利用者同士の間により良い関係性が出来るように配慮し、席替えや同趣味による共同作業を行える環境作りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、家族からの要望があれば、不要となった介護用品等を引き取り適切な処理を代行している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、表情や言葉を聴き取りながら、その方の心の奥にある思いや、感情を表出できるように配慮し、その人らしい望む生活の実現に向けて、希望や意向の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族とのコミュニケーションを通じて、これまでの生活歴や暮らしぶり、生活環境等の情報を得、利用者本位のケアを実現するために、関連職種との連携を図ることで、情報を得ることも大切にしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において、心身状況や、体調等の観察を行い、介護記録やケアカンファレンスをもとに、気づきを得ながら、暮らしの現状把握に努めている。また医療等の関連職種からの情報や、アドバイス等の活用もを行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の望む暮らしを達成するためのニーズを把握するために、利用者家族、関係者との話し合いの場を設け(コロナ禍の現在は、書面や電話照会)意見を出し合いながら、介護計画の作成に取り組んでいる。モニタリングの際は、把握した情報を伝達できる仕組みづくりを検討中である。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を明確にし、チームで関わる職員間で、一人ひとりの情報を共有化することで、日々のケアや、介護計画の見直しに活かせることを目標にしている。最適なケアマネジメントの実践に反映できるよう、介護記録に関する書籍等を設置し、職員も自己研鑽に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族を個別で支えるために、多様なニーズに応えられるよう、地域の中の専門職や認知症サポーター、ボランティア等へのメッセージの発信、選択できるサービスの多機能を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域、もしくは、なじみの地域の中で、培われた価値観や、暮らしの楽しみを尊重し、コロナ禍の中で、安全に行う事ができる地域資源の把握に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の意向を大切にしながら、医療機関受診支援にも、対応している。「たろうクリニック」による、定期訪問診療を取り入れており。必要に応じて外部医療機関・他科受診への連携も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による1回/週の巡回時に、利用者の状況を介護職より報告を行い、認知症ケアへの支援も含め、情報共有を図っている。また「たろうクリニック」との24時間連絡体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療に専念できるように、入院時には、キーパーソンとの相談の上、地域医療連携室の病院相談員（MSW）への情報提供に努めている。退院時には、事業所への連絡を依頼し、主治医や看護師、MSWから、ご本人の心身状況のい確認を行い、退院後の受け入れ準備に繋げている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療連携体制加算の同意を得て、重度化に対する指針を説明している。また身心状態に応じてかかりつけ医、家族様との話し合いを行い、看取りケアを行う際も本人様の意向を確認しながら、家族様やかかりつけ医との話し合いを行い今後の方針を決めている。また家族様の要望に臨機応変に対応出来る様に配慮している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生等に備え、実践力を身につけられるように、職員全員が心がけている。コロナ禍の中で、参加できる訓練や、救命サポートアプリ等の活用も検討している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて、ライフライン事故や輸送困難を想定し、対応できるよう申し合わせを行っている。災害時のシュミレーションや、定期的な避難訓練を行っている。適切なケアを受けられるよう、緊急連絡網での連絡体制をとっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが尊い存在であることを常に考え、利用者中心のケアの重要性を大切にしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの際は数種類の飲み物の中から希望のものを選んで頂いている。また入浴や就寝時間についてはできるだけ本人の希望に沿うようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所前の生活習慣の中で日課があれば、継続するようにしており、職員が日々の生活スケジュールに余裕を持って行動する事で、お一人お一人のペースや生活リズムを大切にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重し、日々の身だしなみを整えている。ご希望の利用者には、訪問美容や、行事等での化粧、ネイル等を取り入れている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を作る際、下準備や、味付け、調理方法を一緒に考えて頂き、食事作りが得意な方には、できる役割を担って頂けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表をもとに、1日の食事水分摂取量の把握を行っており、食事や水分量が不足している利用者に関しては好きな飲み物や食べ物を摂取していただくなどの支援を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の歯磨きを行っており、義歯は就寝前に消毒している。自身で磨いた後に必要時磨き直しの支援を行っている。個別の状態に応じた口腔ケアを実践している。また訪問歯科も利用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンに応じた排泄支援を行っている。また下着を使用されている入居者様もおられるので、できるだけ排泄レベル維持に努める様に留意している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や個別運動等を行い、こまめな水分補給とバランスに配慮した食事を取るよう留意している。また排泄状況を正確に申し送り、ケアに活かしている。必要に応じてクリニックからの指示を頂き薬によるコントロールも行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は週3回としているが、入浴のお声掛けの際に無理強いとにならないように、入浴表等を活用しながら利用者の体調や気分に合わせて臨機応変に対応している。本人の気持ちが乗らない時は翌日に変更している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は固定せず、各入居者様の睡眠パターンを考慮している。休息も同様にご本人の希望に配慮している。また、就寝前リビングでの雰囲気作りや居室内の室温調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を薬箱の近くに置き適宜確認できる環境下になっている。新しく処方された薬に関しては、用法用量を理解し服薬の支援を行っている。症状の変化に対応できるように観察点を確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じた楽しみ（食後のお菓子、外出など）の機会を持つ事を大切にしており、日常の会話から確認できる希望は職員間で共用し、実現出来るように取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその方の状態に応じて近所へ散歩に出掛けたり家族様の協力のもと時々外出されている。※現在はコロナ禍につき密になる場所への外出は控えている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人様の預り金として事務所金庫にて保管し、買い物や外出時に本人様と一緒に金額など相談しながら支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等の面会が困難な時期は、施設内の電話を利用しお話しして頂いている。携帯電話を持ち込まれている方もいる。家族からの手紙は利用者に渡し必要であれば職員が代読している。また利用者から希望に応じ家族宛の手紙やメッセージを郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな物音や不快な物音をたてない様に常日頃留意し、室内も適度な明るさを維持している。また定期的な換気や冷暖房等を使用し室温及び湿度を調整している。入居者・スタッフでレク活動として作ったものを廊下等に飾り、季節感や居心地良く過ごせるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには個別の席を確保しており、食卓テーブルやソファでは気の合った利用者同士が思い思い自由に過ごせるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前暮らしていた頃に少しでも近付ける様に、馴染みのある家具や写真等を置き居心地の良い空間を作っている。また、自身で作成された絵や作品、職員や家族によるメッセージカードや色紙等を飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、廊下やリビング内、トイレ内等に障害となる物を置かない様になっている。また、人感センサーを設置し安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項目	取り組みの成果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない